

Books of the Month

今月の本



基礎から学ぶ 楽しい疫学

第5版

著：中村好一
発行：医学書院
定価：3520 円
(本体 3200 円+税 10%)

疫学の初心者向けの定番教科書。著者一流の切れ味鋭くユーモアに富んだ語り口で、疫学研究の方法論、バイアスの問題、統計処理の方法など、疫学の基礎知識を学べる。第10章「疫学に必要な統計」では、平均の差の検定、割合の差の検定、相関係数の検定についても解説。付録には「本書の数式を理解するための数学の基礎知識」を追加した。



知って考えて実践する 国際看護

第3版

著：近藤麻理
発行：医学書院
定価：2200 円
(本体 2000 円+税 10%)

世界情勢が刻一刻と変化するなか、看護職の国際的視野が今まで以上に求められている。日本国内だけに目を向けるのではなく、世界に開かれた視野をもち、国際的な感覚を磨ける。関心のあるテーマから読み進められるようになっており、第3版では、読者に視野をより一層広げてもらいやすくするため、コラムを刷新し、各項の内容もアップデートした。



Pocket Drugs 2026

(ポケットドラッグズ
2026)

監修：福井次矢
編集：小松康宏、渡邊裕司
発行：医学書院
定価：5060 円
(本体 4600 円+税 10%)

治療薬を薬効ごとに分類し、冒頭に「臨床解説」を掲載。各薬剤情報では、すぐに役立つ「選び方・使い方」、薬剤選択・使用時の「エビデンス」をコンパクトにまとめた。フルカラーで欲しい情報がすぐに見つかり、主要な薬剤は写真も掲載。臨床現場で本当に必要な情報だけをまとめたポケット判医薬品集。

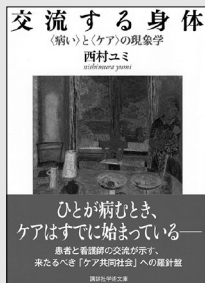


実践 マタニティ診断

第6版

編集：日本助産診断実践学会
発行：医学書院
定価：4290 円
(本体 3900 円+税 10%)

本書は、マタニティ診断の定義、看護診断や医学診断との違いを説明した後、妊娠婦と新生児・乳児をどのように捉えどのような診断を行うのかを示している。さらに事例を通して、問診や観察によって対象者を記録・分析、診断をし、ケア計画を立案する過程も示す。助産に限らず、妊娠婦や新生児・乳児を対象にしたケアを考える上でも参考となる。

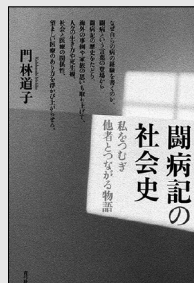


交流する身体

〈病い〉と〈ケア〉の
現象学

著：西村ユミ
発行：講談社
定価：1430 円
(本体 1300 円+税 10%)

パーキンソン病・統合失調症・小児・末期ガン・緩和ケア……
〈ケア〉という営みは、病む人の苦しみに引き寄せられ、ときに痛みやつらさの表情に押し戻され、それでもその傍らにとどまり続ける態度の中にすでに現れ始めている。看護学生と新人看護師の経験と語りを「鏡」として探る、来たるべき「ケア共同社会」への道しるべが待望の文庫化。



闘病記の社会史

私をつむぎ他者となつがる
物語

著：門林道子
発行：青弓社
定価：3740 円
(本体 3400 円+税 10%)

1920 年代に闘病という言葉を生み出した小酒井不木の著作をはじめ、100 冊を超える闘病記を丹念に読み解き、「闘う」から「ともに生きる」へと変化してきた闘病記の歴史をたどる。患者が現実を受け入れて自己の経験を綴る、闘病記という「生の声」に光を当て、人々の生き方や死生観、社会と医療の関係性、望ましい医療のあり方を根本から問い直す。



認知症の人を支える デザインのちから

からだところろの変化を
補い、暮らす環境を整える

著：間瀬樹省，山崎正人，
山下総司
発行：彰国社
定価：3080 円
(本体 2800 円+税 10%)

本書は、認知症者・高齢者対象の生活づくりを実践している工業デザイナー、環境アドバイザー、建築家の 3 名が、認知症になっても、もともともっていた能力を上手に引き出し、自分の力を活かして暮らしていける生活の工夫を提案する。認知症の人を支える介護施設や家庭にとって、どんなことを考えて環境を整えればよいのかが理解できる。



大阪市立総合 医療センター流 私たちの倫理 コンサルテーション メソッド

編著：多田羅竜平
発行：照林社
定価：2750 円
(本体 2500 円+税 10%)

日々の臨床の中で、病院、医療者は正論や思いだけでは解決できない問題に直面する。本書は、大阪市立総合医療センターの多職種チームが 10 年の活動で培った、倫理コンサルテーションの考え方・進め方・対応法を紹介。倫理コンサルテーション実践のためのメソッドや、倫理カンファレンスの進め方、対話のポイント、意思決定支援のプロセスも収載した。